

■ コメント

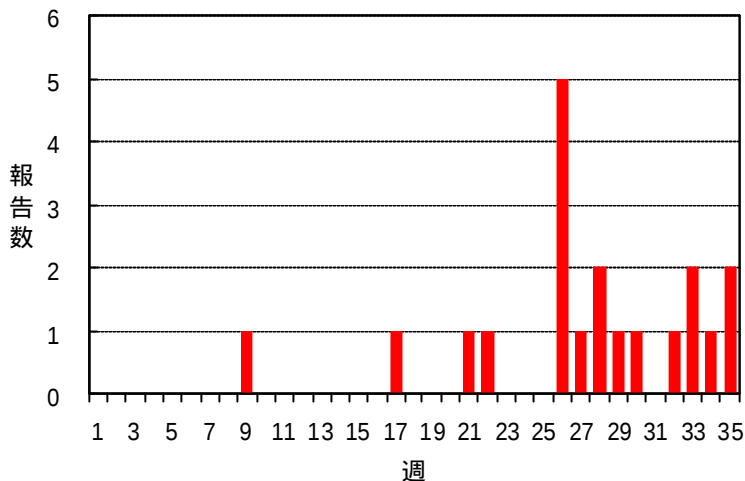
1. 腸管出血性大腸菌感染症

2件の報告があり、第26週以降報告が続いています。9月になりましたが、まだ気温が高い日が続いており、大腸菌などの細菌が繁殖しやすくなっていますので注意が必要です。

2. 感染性胃腸炎

定点当り4.08人とやや増加しており、例年同時期と比べて多くなっています。

腸管出血性大腸菌感染症(2006年第35週まで)



■ 5類感染症報告状況(定点把握対象分)

疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)間	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)間	発生記号
インフルエンザ(注2)	-	-	-		麻疹(注3)	-	-	0.02	
咽頭結膜熱	12	0.50	0.29		流行性耳下腺炎	8	0.33	1.05	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15	0.63	0.51		RSウイルス感染症	-	-		
感染性胃腸炎	98	4.08	2.89		急性出血性結膜炎	1	0.13	-	
水痘	8	0.33	0.65		流行性角結膜炎	4	0.50	1.25	
手足口病	7	0.29	0.71		細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
伝染性紅斑	5	0.21	0.22		無菌性髄膜炎	1	0.14	0.40	
突発性麻疹	24	1.00	1.07		マイコプラズマ肺炎	2	0.29	0.37	
百日咳	2	0.08	0.07		クラミジア肺炎(注4)	-	-	-	
風しん	-	-	0.03		成人麻疹	-	-	-	
ヘルパンギーナ	9	0.38	0.71						

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね1.2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1.1.5～2の増減

微増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1.1.1～1.5の増減

横ばい ⇨ ほとんど増減なし

報告数が少ないなど、傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注1)過去5年間の同時期平均(定点当り)
(注2)高病原性鳥インフルエンザを除く
(注3)成人麻疹を除く
(注4)オウム病を除く

■ 1類～5類感染症報告状況(全数把握対象分)

類型	疾患名	報告数	累積	備考
3	腸管出血性大腸菌感染症	2	20	男性(30歳代)・O157、男性(30歳代)・O157

■ 5類感染症報告状況の推移 (定点把握対象分)

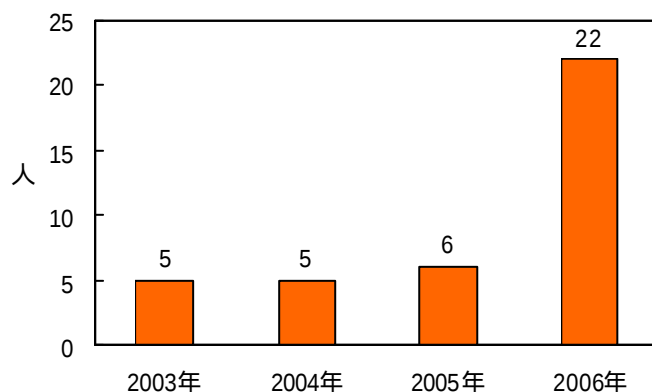
			インフルエンザ (注1)	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん(注2)	流行性耳下腺炎	RSウイルス 感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎 (注3)	成人麻しん
報告数	広島市	第31週	-	9	25	85	19	12	14	14	-	-	27	1	11	-	-	10	-	6	15	-	-
		第32週	-	14	13	98	11	6	14	15	2	-	25	-	12	1	-	11	-	2	10	-	-
		第33週	-	7	15	75	7	4	7	21	-	-	8	-	6	-	-	9	-	-	11	-	-
		第34週	-	7	11	78	16	8	10	33	-	-	7	-	8	-	-	14	-	1	2	-	1
		第35週	-	12	15	98	8	7	5	24	2	-	9	-	8	-	1	4	-	1	2	-	-
定点当り	広島市	第31週	-	0.38	1.04	3.54	0.79	0.50	0.58	0.58	-	-	1.13	0.04	0.46	-	-	1.25	-	0.86	2.14	-	-
		第32週	-	0.64	0.59	4.45	0.50	0.27	0.64	0.68	0.09	-	1.14	-	0.55	0.05	-	1.57	-	0.29	1.43	-	-
		第33週	-	0.29	0.63	3.13	0.29	0.17	0.29	0.88	-	-	0.33	-	0.25	-	-	1.13	-	-	1.57	-	-
		第34週	-	0.29	0.46	3.25	0.67	0.33	0.42	1.38	-	-	0.29	-	0.33	-	-	1.75	-	0.14	0.29	-	0.14
		第35週	-	0.50	0.63	4.08	0.33	0.29	0.21	1.00	0.08	-	0.38	-	0.33	-	0.13	0.50	-	0.14	0.29	-	-
	全国	第33週	0.01	0.80	0.48	2.15	0.69	0.94	0.25	0.64	0.01	-	0.77	0.01	1.18	0.04	1.17	0.01	0.08	0.41	-	-	
		第34週	0.01	0.71	0.58	2.56	0.65	0.89	0.34	0.89	0.01	-	0.67	-	1.11	0.03	1.40	0.02	0.07	0.35	0.01	-	

(注1)高病原性鳥インフルエンザを除く (注2)成人麻しんを除く (注3)オウム病を除く

■ 新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者 年齢	性別	発症 年月日	検査材料	検出病原体
咽頭結膜熱	0	男	2006/07/23	糞便	エコーウイルス18型
咽頭結膜熱	0	男	2006/07/23	咽頭拭い液 糞便	エコーウイルス18型
咽頭結膜熱	0	男	2006/07/24	糞便	エコーウイルス18型
感染性胃腸炎	0	男	2006/07/30	糞便	アデノウイルス1型
無菌性髄膜炎	10	女	2006/07/14	咽頭拭い液 糞便	エコーウイルス18型
無菌性髄膜炎	7	男	2006/07/18	髄液	エコーウイルス18型
無菌性髄膜炎	4	男	2006/07/21	糞便	エコーウイルス18型
無菌性髄膜炎	6	男	2006/07/26	髄液 糞便	エコーウイルス18型
無菌性髄膜炎	8	男	2006/07/26	糞便	エコーウイルス18型
急性咽頭炎 不明熱	0	男	2006/07/15	糞便	エコーウイルス18型
急性咽頭炎 不明熱	0	男	2006/07/23	咽頭拭い液 糞便	パレコウイルス
急性咽頭炎 不明熱	0	女	2006/07/23	糞便	パレコウイルス
小脳失調症(疑)	1	男	2006/07/31	咽頭拭い液	パレコウイルス
上気道炎	0	男	2006/07/18	糞便	エコーウイルス18型
上気道炎	0	女	2006/07/20	髄液 糞便 鼻汁(拭い液)	パレコウイルス

■ ウイルス検出速報 — パレコウイルス —



パレコウイルスの検出数が6月頃から増えていきます。グラフに示したように、2003年から2005年は、年間5～6人で推移していましたが、今年は、これまで22人から検出されています(8月31日結果判明分まで)。

主な症状は、発熱(86%)、呼吸器疾患(23%)、胃腸炎(9%)で発疹や神経系の症状も見られます。低年齢層に患者が多く、0歳児が82%を占めています。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail eiken@city.hiroshima.jp

2006年第35週(8月28日～9月3日)